

中学国語
古文講座

おくのほそ道②

《序文 その二》

基本の解説と問題



【担当講師】
秀浦 りき

《序文その二》ポイント

4 予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、
⑦ — | ⑧ — | ⑨ — | ⑩ — | ⑪ —
()

(語句) ⑦ 予 =
⑧ いづれ =
⑨ より =

⑩ 片雲 =
⑪ の =

[訳]
風に誘われていくように、
() (も) () (の年) () (か) () ()

5 漂泊の思いやまず、海浜かいひんにさすらへ、
⑫ — |
()

(語句) ⑫ 漂泊 =

[訳]
止めることができず、海浜をさすらい、
() () (の思いを)

4 予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、
 (7) — (8) — (9) — (10) — (11)

(語句) (7) 予 = (8) いづれ = (9) より =

(10) 片雲 = (11) の =

[訳]
 () (も) () (の年) () (か、) ()
 風に誘われていくように、

5 漂泊の思いやまず、海浜かいひんにさすらへ、
 () (12)

(語句) (12) 漂泊 =

[訳]
 () () (の思いを)
 止めることができず、海浜をさすらい、

①⑦
 ①⑧
 ①⑨
 8 そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
 ②⑩ 道祖神の招きに会ひて、
 ()
 取るもの手につかず。

(語句) ①⑦そぞろ神 ①⑧人の旅心をそそのかす神

①⑧の 〇

①⑨物につきて ①⑧乗り移つて

②⑩道祖神 ①⑧旅の安全を守る神

〔訳〕

そぞろ神 () 乗り移つて心をそわそわさせ、
 道祖神が手招きをしているような気がして、
 取るものも手につかない。

★「心を狂はせ」・「取るもの手につかず」

=

〔様子〕

おくのほそ道 《序文》

月日は百代の過客にして、
行きかふ年もまた旅人なり。

舟の上に生涯を浮かべ、

馬の口とらへて老いを迎ふる者は、

日々旅にして旅をすみかとする。

古人も多く旅に死せるあり。

予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、

漂泊の思いやまず、海浜にさすらへ、

去年の秋、江上の破屋にくもの古巢を払ひて、

やや年も暮れ、春立てる霞の空に、

白河の関越えむと、

そぞろ神の物につきて心を狂はせ、

道祖神の招きに会ひて取るもの手につかず。

もも引きの破れをつづり、笠の緒つけかへて、三里に
灸据ゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住める
かたは人に譲りて、杉風が別墅に移るに、

草の戸も 住み替はる代ぞ 雛の家

面八句を庵の柱に懸け置く。

《序文その二》ポイント

4 予(ず)もいづれ(7)の年(8)より(9)か、片雲(10)の風(11)に誘(お)はれて、

(語句) ⑦予 = 私 ⑧いづれ = ⑨より = から

⑩片雲 = ちぎれ雲 ⑪の = が

〔訳〕 (私)もいつ(の年)からか、(ちぎれ雲)が風(え)に誘われていくように、

5 漂泊(12)の思いやまず、海浜(かいひん)にさすら(え)へ、

(語句) ⑫漂泊 = [あてもなく旅をすること] = さすらい

〔訳〕 (あてもなく旅をしたいという)の思いを止めることができず、海浜をさすらい、

6 去年の秋、江上の破屋（かうしやうはをく）にくもの古巢を払ひて、
（ござ） （こざしやう） （はおく） （い）

（語句）⑬江上の破屋|| 川のほとり の 粗末な家

★芭蕉 [] の家のこと （あばら屋）

〔訳〕
 去年の秋、（川のほとり）の（粗末な家）に
 帰つて、くもの古巢を払つて住んでいたが、

7 やや年⑭も暮れ、春⑮立てる霞（かすみ）の空に、
 ⑮ 白河の関越えむ⑯と、
（ん）

（語句）⑭やや|| やがて

⑮立てる|| 掛詞
 A 春が立つ（立春）
 B 霞が立ちこめる

⑯越えむ|| 越えよう

〔訳〕
（やがて）（年）も暮れ、春霞が立つ空のもと、
 白河の関所を（越えよう）と思つて、

①⑦
 ①⑧
 ①⑨
 ②⑩
 ③
 ④
 ⑤
 ⑥
 ⑦
 ⑧
 ⑨
 ⑩
 ⑪
 ⑫
 ⑬
 ⑭
 ⑮
 ⑯
 ⑰
 ⑱
 ⑲
 ⑳
 ㉑
 ㉒
 ㉓
 ㉔
 ㉕
 ㉖
 ㉗
 ㉘
 ㉙
 ㉚
 ㉛
 ㉜
 ㉝
 ㉞
 ㉟
 ㊱
 ㊲
 ㊳
 ㊴
 ㊵
 ㊶
 ㊷
 ㊸
 ㊹
 ㊺
 ㊻
 ㊼
 ㊽
 ㊾
 ㊿

8
 そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
 道祖神の招きに会ひて、
 取るもの手につかず。

(わ)
 (い)

対句

(語句) ①⑦そぞろ神 ①⑧人の旅心をそそのかす神

①⑧の ㊱ が

①⑨物につきて ㊲ 乗り移つて

②⑩道祖神 ㊳ 旅の安全を守る神

〔訳〕

そぞろ神(が) 乗り移つて心をそわそわさせ、
 道祖神が手招きをしているような気がして、
 取るものも手につかない。

★「心を狂はせ」・「取るもの手につかず」

=

旅をしたいという思いで、落ち着かない

様子

基本問題

《基本問題》

● 次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の読み方を答えなさい。

①「海浜」

②「去年」

③「江上の破屋」

(2) 次の語句の意味を答えなさい。

①「予」

②「片雲」

③「江上の破屋」

④「やや」

⑤「越えむ」

《基本問題》 解答

● 次の問いに答えなさい。

(1) 次の語句の読み方を答えなさい。

①「海浜」

かいひん

②「去年」

こぞ

③「江上の破屋」

こうしょうのはおく

(2) 次の語句の意味を答えなさい。

①「予」

私

②「片雲」

ちぎれ雲

③「江上の破屋」

川のほとりの粗末な家

④「やや」

やがて

⑤「越えむ」

越えよう

応用問題

《応用問題》

- 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。
舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、
日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。
予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の
思いやまず、海浜にさすらへ、去年の秋、江上の破屋にく
もの古巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に、
⑥
白河の関越えむと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、
道祖神の招きに会ひて取るもの手につかず。

- (1) ①・③を現代仮名遣いに直し、**ひらがな**で書きなさい。

①

③

- (2) ②の口語訳を書きなさい。

次のページへつづく

③の主語を文章中から抜き出しなさい。

--

👉 やや難問!

④ 去年の秋に作者が江上の破屋に帰ってくる前、作者はど
うしていたか。文章中から七字で抜き出しなさい。

👉 よくでる!

⑤ 作者の旅をしたい思いで落ち着かない様子が現れている
部分を文章中から、三十五字以内で探し、初めと終わり
の五字を抜き出しなさい。(句読点を含む)

⑥に用いられている表現技法を答えなさい。

--

⑦と対句的關係にある部分を、文章中から抜き出しな
さい。

--

【問題は以上で終わりです】

それでは、応用問題を
がんばって解いてください。



確認・応用問題・Practiceの解答 (PDF & 解説動画)は、

<http://e-clus.com/> で購入できます。



フリー学習動画のイークラス
e-CLUS
中学生向けフリー学習動画のイークラス (e-CLUS)。中学の基本問題から応用までを無料動画で学びます

🏠 サイトマップ 🗨 よくある質問 🗣 みんなの声 📄 会員ログイン

ホーム 講座のご案内 講座の料金 教材の種類 動画を使った学習方法 運営会社 お問い合わせ

中学の基本問題・解説から応用問題まで
無料動画 **で自立学習**

中学校3年間で勉強する英語・数学・理科・社会の学習項目を、動画投稿サイトを使って基礎から応用まで無料で学習できます。
応用問題の解答が知りたくなったら有料の解答・解説動画をご利用ください。
マイペースで自立学習ができる学習サイトです。

南アメリカ大陸

パソコン OK! スマホ OK!
タブレット OK!

英語・数学・理科・社会の学習項目を動画で配信中!

ユーザー登録 (無料) →
e-CLUSの指導方法 →
動画学習で成績がアップする理由
教科書対応表で学習範囲をチェック! →
中学英語 →

中学英語 動画をチェック!
中学数学 動画をチェック!
中学理科 動画をチェック!
中学社会 動画をチェック!
季節講座 動画をチェック!

無料動画はユーザー登録しなくても視聴できるって!



学習動画イークラス

検索

